

令和5年度 自己評価表

松山南高等学校（砥部分校）

学校番号 21

教育方針	国家社会の有為な形成者として、広く世界的視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与する若人の育成を期する。	重点目標	さわやかな目・豊かな心・確かな手を育てる 夢を育み、志高く個性を伸ばす教育の推進 －生徒一人一人を大切にした指導の実践－
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 習 指 導	教科指導の充実	生徒アンケートの回答「授業内容がよく分かる・分かる」:90%以上。 A:90以上 B:80～89 C:70～79 D:60～69 E:59以下 ICTの効果的活用とSTEAM教育の推進により、生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図る。	B	生徒アンケートで、97.1%の生徒が「授業内容がよく分かる・分かる」と回答し、目標を達成することができた。また、99.6%の生徒が「授業の指導法に工夫が感じられる」と回答しており、昨年度に引き続きICTを効果的に活用した授業改善が実践できた。STEAM教育については、普通教科とデザイン科目においていくつか横断型授業の取組があり、一定の成果が上がった。	引き続き、90%以上の生徒から「授業内容がよく分かる・分かる」という評価をされるよう、授業研究などを通して、各自研修に努める。 STEAM教育については、まだ一部の取組にとどまっているので、他校の実践事例について研修する機会を持つなどして全体的な取組へと広げていきたい。
	デザイン技術の習得	校外展への応募を増やし、校外展入賞70点以上を目指す。 A:70以上 B:60～69 C:50～59 D:40～49 E:39以下 全国規模の公募に積極的に出品し、入選・入賞数を増やし、 <u>全国に通用する生徒の育成を図る。</u>	A	今年度の校外公募展入賞数は45点だった。ただ、入選を含めると84点となり学校全体としては生徒の頑張りが見える結果となった。 また、全国規模の公募については、4年連続で全国総文祭に出場するだけでなく新たな成果として、ファッション甲子園で審査委員特別賞、パソコン甲子園では最高賞である優秀賞、そしてやきもの甲子園では伝統工芸賞を受賞するなど様々な分野で功績を残した。	秋季県展へ毎年全学年が取り組んできたが、今年度は会期が早まったことから1年生の出品は行わなかった。次年度においても1年生については「基礎の定着」をまず第一に考え、県展への出品は2年生からとなる。今年度については全国公募展での成果が目覚ましく、引き続き全国に通用する生徒の育成を図ってきたい。
		デザイン専門科目での基礎・基本の習得を徹底し、 <u>各科目相互の連携を行い効果的に高いスキルを身につけれる生徒の育成を図る。</u> <u>また、公募展・外部依頼などの実践的なデザインワークに積極的に挑戦する姿勢を身に付けさせる。</u>	C	今年度はデザイン科内の実習を伴う科目でT・Tの授業を増やし、他視点から実技指導を行った。さらには各デザイン科目の授業内容を洗い出し、教員間の科目連携のきっかけづくりを行うことができた。ただ、生徒に直接的な効果はまだ感じられないのが現状である。 また、公募展・外部依頼については昨年度同様に取り組むことができた。	基礎・基本の定着をデザイン科内全体で徹底していきたい。今年度は特に科目内容の洗い出しを行った結果、科目間の関連性は意識しやすくなったと考える。次年度においては、学年ごとの目標を生徒に意識させ確かな技術と知識の定着をさらに図り、授業の作品だけでなく各種公募展で授業で培った成果を発揮させていきたい。
生 徒 指 導	基本的生活習慣の確立	端正な身だしなみとさわやかな挨拶の励行を通して、「地域の範となる砥部分校生」を育成する。 欠席者、遅刻者数を減少させる。 1か年皆勤者率:40%以上。A:40%以上 B:30～39 C:20～29 D:11～19 E:10%以下	D C	自発的に挨拶はできているが、端正な身だしなみに関しては生徒個々の差があり、学校全体として成果があったとは言い難い。 皆勤者は29.2%で、昨年度の33.3%から減少した。年度当初と比べると改善傾向は見られるが、特定の生徒に遅刻・欠席が多い傾向があり、個々に応じた対応が必要である。	「身だしなみ検討委員会」など、服装規定等を見直す機会を設定する。学校や社会の形成者としての当事者意識を生徒に持たせる。 一人一人の生徒の状況を把握し、教員間で情報共有しながら粘り強く指導を続ける。生徒が安心して学べる環境を確保する。
	交通安全指導の充実	交通法規の遵守と危険を察知する態度を育成する。 交通事故発生件数:0件。A:0件 B:1件 C:2件 D:3～4件 E:5件以上	C	ヘルメット非着用の指導が1件、自動車と自転車の軽微な接触事故が2件あった。通学指導等をしていると、本校生徒の自転車交通マナーは比較的よい方だと思われる。	生徒会等の呼びかけを通して、登校時以外でもヘルメット着用、安全走行の徹底を図る。ながらスマホやイヤホンの装着をゼロにする。ゆとりを持った登下校に努めさせ、交通事故ゼロを目指す。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	進学指導の充実	進路目標を確立するため、年に2回以上、進路ガイダンスを実施する。	B	校外ガイダンスを1回、校内ガイダンスを2回実施した。生徒にとって、進路の情報を収集し目標を持つ有意義な機会となった。	進路指導の充実を図るため、次年度も計画的に進路ガイダンスを実施したい。
		進学補習を充実させ、学力と意識の向上を図りながら、志望する大学等への進学を実現する。	C	補習等を通して継続した進学指導を行い、進学希望者は全員、希望する学校に進学することができた。入試の多様化に伴い、今後、指導方法の見直しは必要になってくるだろう。	課会や進路指導委員会で年間計画や分担について話し合い、連携を図ることで、より効果的な進路指導を行っていききたい。
	就職指導の充実	各種資格取得の奨励と就職講座の継続的实施により、職業観を育成する。就職希望者全員の就職を実現する。	A	就職希望者全員が、希望する職種の企業に就職することができた。資格取得の奨励や、就職講座の実施により、就職に対する意識を高めることができた。	就職に向けての取り掛かりが遅い生徒がいる。早い時期からの指導の必要性を感じる。
豊かな心の育成	人権教育の充実	人権を尊重した環境作りといじめを防止する集団を作る。	B	アンケートによる生徒の実情把握や人権・同和教育ホームルーム活動を通して、学校全体で望ましい集団作りに取り組むことができた。	学年間や生徒課等との連携を密にし、問題の未然防止や早期発見に努める。人権同和教育関係の研修を分担するなど、多くの教職員に学びの機会を与え、情報共有できるようにする。
	自尊意識の育成	授業、制作活動、学校行事等の学習活動を通じて、自己決定、場面リーダー、相互評価を自尊意識の育成に努める。	B	ホームルーム担任による面談と、教育相談による全局面談を行った。制作活動や学校行事に取り組み、達成感や自己有用感を高めることができた。構成的グループエンカウンターにより自己理解、他者理解、自己受容等を促進した。	運動会やクラスマッチ等の学校行事の在り方を見直し、生徒が主体的に考え、行動していくシステムを構築する。校外での活動や外部の方との交流を通して、豊かな社会性を身に付け、変化の激しい社会でたくましく生きる人材を育てる。
	心身共に健康で人間性豊かな生徒の育成	心理教育や面談を通して、全ての生徒の心理的な発達を援助し、生徒の人間形成に関わる諸問題に対して主体的に自らの力で解決できるよう支援する。	B	スクールライフアドバイザーを活用し、全校生徒対象の面談を行うことで予防的カウンセリングを行うことができた。「オール松山南高」関連行事については、台湾交流事業や芸術文化発表会での交流を行うことができた。	あらゆる場面を通じて心理教育の機会を増やし、開発的カウンセリングを充実させレジリエンスを高める。「オール松山南高」の意義を理解させ、可能な関連行事を模索し、多くの生徒の参加・交流を図る。
開かれた学校づくり	保護者との連携強化	PTA活動、個別の連携とともに、メール配信システムやホームページでの連絡など、ICTを利用して学校と保護者の連携を確立する。「PTA便り」を充実させる。	A	メール配信システムやホームページ、SNSなど活用して教育活動について情報を伝え、保護者との連携に努めた。PTA活動においては、保護者との連携、とその多大なる協力により行事を円滑に行うことができた。理事会などにおいて、保護者の意見を集約し、学校運営に反映することができた。	保護者の皆様の学校に対する信頼や熱い思い献身的な協力体制を実感する一年だった。その思いに応えつつ、行事や協力体制のあり方を検討する。生徒の個別対応については、信頼関係の構築を軸に学校と家庭の両輪で生徒を支え、PTA便を充実させる。
	地域貢献の推進	地元砥部町及び地域との連携・交流による制作活動年間7件以上。 A:6件以上 B:5件 C:3~4件 D:2件 E:1件以下	A	地域からの外部制作依頼に関しては8件取り組んだ。今年度は制作依頼だけでなく地域イベントへの参加など特に地域との結びつきを感じる事ができた。	外部からの依頼制作を受けることは生徒の実践的なデザインワークに繋がっていくと考えるので引き続き行うが、依頼の線引きにおいて曖昧な部分があり、規定を明確にする必要を特に感じた。
	広報活動の改善・充実	ホームページ1日250アクセス数を目標として、ブログの更新を活発にするとともに、SNSを有効に利用することで、画像や動画など学校の雰囲気を視覚的にアピールしたり、学校行事の宣伝を容易にする。 A:250以上 B:200~250 C:150~200 D:100~150 E:100以下	B	前期中はHP担当の貢献により定期的な更新と順調なアクセス数を記録していた。県のHPサーバの切り替えによる新HP導入後の混乱もあり、更新頻度は減っている現状だが、HPデザインの刷新とともに現在改善を進めている。代替機能としてInstagram開設と記事投稿による情報発信は順調なアクセス数(再生数はコンスタントに500回以上)を記録し、保護者アンケートでも好意的な意見が寄せられるなど、学校の魅力発信に貢献できた。	InstagramやYoutubeなどのSNSとホームページとの住み分けや効率的な連携の推進など、次年度はさらに発信力の強化に努めたい。
業務改善	適切な勤務時間	業務の精選と省力化を図ることで時間外労働を削減するとともに、教員の本来業務を充実させることで、ワークエンゲージメントの高い職場環境を目指す。 時間外労働時間45時間以上0%。 A:0%、B:15%未満、C:30%未満、D:40%未満、E40%以上	E	グループウェアを活用することで会議の時間を短縮するなど、業務の効率化を図ったり、業務全般を見直すことで労働時間の削減を図り、教職員のワークエンゲージメントを高めることができた。年休等の休暇を取りやすい雰囲気を醸成し、ワークライフバランスの醸成に努めたが、週45時間以上時間外労働している教職員は全体の42.4%と目標を大きく下回った。	学校業務のさらなるスリム化により、教員本来の学校業務に専念できる体制を構築する。外部からの委託については、受注を見直す。また、外部との協働については、なるべく外部人材を積極的に活用することで、教育成果の向上と教員の業務軽減に努めたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。